

茨城大学工学部 都市システム工学科 令和元年度後期 学科教育点検報告書

令和2年 3月 24日

報告者 都市システム工学科 学科長 山田稔

## 1. 実施日時と場所

令和2年3月23日（月）9:30～14:30 S2棟3階 都市システム工学科会議室

## 2. 出席者

常勤教員：20名（全常勤教員20名のうちの20名が出席）

山田稔、呉智深、金利昭、小林薫、横木裕宗、原田隆郎、桑原祐史、信岡尚道、成田和彦、藤田昌史、久野靖広、熊澤貴之、平田輝満、車谷麻緒、榎本忠夫、辻村壮平、内藤将俊、一ノ瀬彩、稲用隆一、増永英治

（常勤教員のうちの欠席者：なし）

非常勤教員：出席者なし

技術職員，事務職員：出席者なし

## 3. 添付資料

資料1 会議議事録

資料2 2020年度後期 学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会 議事次第

資料3 令和元年度後期 授業点検改善表集

## 4. 授業点検の実際

### 4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり。

常勤教員担当科目分：32科目／常勤教員担当科目総数32

非常勤教員担当科目分：4科目／非常勤教員担当科目総数5

### 4. 2 点検した科目

材料力学、造形演習Ⅰ、造形演習Ⅱ、都市・地域計画、線形代数Ⅱ、建築学概論、多変数の微積分学、電磁気学概論、空間情報工学、都市システムフィールドワーク、水理学Ⅱ、複素解析、建築設計製図Ⅱ、社会基盤工学基礎演習Ⅱ、地球環境工学、鉄筋コンクリート工学、土木計画学、多変量解析、景観工学、構造力学Ⅱ、都市システム情報処理、建築環境工学、地盤力学Ⅱ、水環境学、河川・水文学、輸送施設工学、都市防災システム工学、

都市システム設計演習Ⅱ、建設施工、都市システム工学実験Ⅱ、建築構造設計、都市システム工学特別講義、建築設計製図Ⅳ、公共事業評価とリスク分析、建築設備、都市システム工学学外実習、卒業研究

(前期に開講した専門科目の総数 37 科目中の 100 パーセント)

#### 4. 3 具体的な点検方法

特別研究・特別演習を除く授業科目については以下の方法で点検を実施した。

- ・ 学科における後学期科目（37科目）について点検した。
- ・ 各科目について、担当教員が授業の内容や課題等をシラバスに基づいて紹介するとともに、本会議の出席者と質疑を行うことで当該授業の課題・問題を明確にし、その後、授業点検改善表や授業アンケートの集計結果などで指摘が挙げられた点を中心に、授業方法の優れている点ならびに改善すべき点について3分間程度で自己評価を行った。
- ・ 複数教員が異なるテーマで授業実施をする科目では、必要に応じて複数担当者から上記の点検内容を補足しあった。
- ・ 学科教員以外の担当科目については、世話役教員が担当した。
- ・ 前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題について行った対応を、授業点検改善表を用いて各出席者が確認した。
- ・ 各科目について、担当教員の自己評価や授業点検改善表に基づき、教員の取り組み内容を相互に意見交換して情報共有を行なった。
- ・ 実験・実習では、授業準備やレポートの採点の補助、学生質問への対応に TA を活用していることを、TA 利用の実際やその効果について記載された実施報告書を授業記録ファイルに収録したものを回覧し出席者で確認した。
- ・ 特別研究・特別演習については、各研究室からの報告があり、それぞれの研究室の実施内容を確認した。

#### 4. 4 (専攻の点検報告書のみ) 特別実験, 特別演習等の実施状況など

本章は専攻の点検のみ必要となる部分であるため、学部の報告書である本書面では記述を割愛しました。

### 5. 点検評価の結果

#### 5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

- ・ 複数の科目から、自主学習の充実とディスカッションを多く取り入れたところ、学生の反応は良かったという報告があった。
- ・ 学生にプレゼンテーションを実施させ、その内容について学生を交えた意見交換を行っ

たところ、学生の反応が良かったという報告があった。

- ・ 中間アンケートの結果をその後の授業に早急に反映させることで、学生の学習意欲が向上したという報告があった。

## 5. 2 今回の授業方法で優れている点

- ・ 今年度は特になし

## 5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

- ・ 造形演習Ⅰでは、受講者が現状より増えた場合の対応を考える必要があり、特にスケッチのための道具の保管場所の確保が課題である。
- ・ 造形演習Ⅱでは、補講教員がいると良いとの意見が挙げられた。
- ・ 線形代数Ⅱは、非常勤の先生の授業確認の必要があるとの指摘があった。
- ・ 電磁気学概論では、ドリームキャンパスに課題を掲載しているが、学生が見ていないことが多いという報告があった。
- ・ 社会基礎工学基礎演習Ⅱでは、アクティブラーニングをどのように演習科目に取り入れるのか、具体的な実施方法の情報が必要という指摘があった。
- ・ 鉄筋コンクリート工学では、必修と選択必修の学生のモチベーションと学習時間との関係など、成績の捉え方を議論できるような情報があれば良い（今後の課題）のではという意見があった。
- ・ 土木計画学では、学生の学習態度に問題（無駄口、居眠りなど）があり、注意・指摘しても反応があまり良くないという意見があった。
- ・ 都市システム設計演習Ⅱでは、アンケートの取り方が大括りであるため、個別のテーマについて改善しにくいという課題があるとの意見があった。
- ・ 都市システム工学実験Ⅱでは、学生のレポートの書き方について、過去の履修者のレポートを参考にしている事例が報告され、この扱いについて指摘が挙げられた。
- ・ 建築設計製図Ⅳでは、社会との接続を目標として授業を実施し、プレゼンを充実させたが、そのため授業時間が長くなる（時間内に収まらず延長してしまう）傾向があった。

## 6. 教育改善活動

会議中に抽出された問題点について、その改善方法を議論したところ、以下のような意見があった。

- ・ 学生アンケートの結果のフィードバックは大切であり、それをしたときとしないときで随分効果が異なる。個別の設問項目で改善できるような授業アンケート調査の設問項目の見直しも必要ではないか。
- ・ 一方で、学生からドリームキャンパスに課題や資料を掲載してほしいという意見が挙がっており、その意見に対応したところ、学生が見ていないことが多い（閲覧数は受講学

生の半数程度) という報告もあり、学生がアクセスしやすい授業支援システムの検討も大学に要求される。

- ・ アクティブラーニングの実施にあたっては、どのように演習科目に取り入れるのか、具体的な実施方法を情報共有しなければ上手くいかない可能性がある。
- ・ 文章を書くことの大切さを伝え、決められた枠の中できちんとした文章が書けるように指導を強化することが重要である。

## 7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を学科事務室に備え、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

## 8. 『産学協同カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

令和元年度後期については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために外部講師を招いた産学協同カリキュラム改良委員会は開催しなかった。

## 9. その他

- ・ 授業点検ファイルの省力化、ペーパーレス化に関して。